

後藤朝太郎 （ごとう ともたろう） 言語學者、支那文化研究家。明治十四年四月十六日生れ、昭和二十年八月九日没（六八一―一九五〇）。號石農。東京帝國大學文科大學卒。日本大學教授等を務め、殊に支那文化の精通、著作百餘に及ぶ。

- 著書、「漢字の音の系統」（明治四十二年六月二十五日六合館）、
「支那の教へ方」（大正七年二月、千五百（松堂書店）、
「日本より支那へ」（大正十二年十月、千二百上海・樺木幹雄刊、日本郵船株式會社營業部船客課）、
「歡樂の支那」（大正十四年二月、千五百上海・樺木幹雄刊、
日本郵船株式會社營業部船客課）、
「支那文化の研究」（大正十四年六月、千九百富士房）、
「支那の社會相」（大正十五年十一月十五日、
雄山閣）、
「朝鮮漫談」（昭和四年五月十二日富士書房・春陽堂）、
「支那料理通」（昭和五年一月六日四六書院「通叢書」）、
「支那及滿洲旅行案内」（昭和七年五月十五日春陽堂）、
「支那の山寺」（昭和十二年十一月五日、
千五百、千二百大東出版社）、
「支那の男と女—現代支那の生活相」（昭和十二年十一月二十日、
千五百、千二百大東出版社）、
「隣邦支那」（普及版・昭和十四年一月五日、
千五百今日の問題社）、
「支那書道」（昭和十七年四月十八日、
千五百、千二百大東出版社）、
「佛印・泰那」
「支那の交流」（昭和十七年六月、千二百大東出版社）、
「支那の生活相」（昭和十八年一月十八日、
千五百、千二百大東出版社）等。

